

長岡税務署長賞

「税」と向き合う

長岡市立大島中学校

三年 青木 美優

平成二十三年三月十一日、この日付を聞いて何かを思い出す人は多いでしょう。この日東北地方を襲った東日本大震災は、死者・重軽傷者・行方不明者を合わせると二万五千人近くにのぼりました。緑豊かだった町が、一瞬にして濁り茶色に変わる光景と悲しみや恐怖に満ちた現地の人々の表情は当時小学三年生だった私の胸に深く残りました。あの日から五年がたち、とあるテレビで現地の様子を見た時、私は「ある事」に非常に驚きました。それは、「復興の早さ」です。まだ完全でないにしても、本来の姿を確実に取り戻しつつある町なみや、自然、そして何よりも現地の人の笑顔がそれを証明していました。また、そのテレビで私は、「復興特別所得税」という言葉に出会いました。復興特別所得税とは、所得税額の二・一パーセントを所得税とあわせて納付するという税金の一つにあたります。私はこの時初めて、税金が復興に関わっている事を知り、税金についてもっと詳しく調べてみたい、と思いました。私たちの身の周りには、消費税や地価税、酒税からたばこ税など、実に様々な場面での税金が存在します。ですが、「税」に対するイメージは、今の日本社会において、あまり良くない気がします。私が特にそう感じたのは、消費

税増税8%が始まった平成二十六年です。言うまでもなくニュースはその話題で持ち切りになり、テレビから伝わる国民の反感は強いものでした。では逆に、税がなかったらどうなるのでしょうか。ここでは逆に、税がないなりのデメリットがあるのです。例えば、学校で使う教科書や椅子、机が有料になります。警察や消防士の費用も税金なのでこれらの機関も存続できません。こうなれば当然、災害は防ぎきれず犯罪も多発化してしまいます。病気になるたとしても、病院の医療費がとて高くなり、治療を受けられないかもしれません。このように、税と国民の間にある問題は複雑で難しいものだと多くの人が感じているはずで、「税が高ければ高いなりに低ければ低いなりに。」メリットもデメリットも変わり、そこに私たちの混乱が生まれるのは当然のことだからです。しかしそこで、難しいからといってその問題を見て見ぬふりをすればする程にかえってこれからの私たちの生活が混乱するのは目に見えていることだと思えます。私が将来この国で生きていくにあたって、税との関わりは決してとどめることはできません。そしてその時になって税について考えることにはいけません。そしてその時に豊かで、国民の一人一人が暮らしやすいものにする為に、必要なのは、今から国の課題に対して、様々な知識を持ち、自分なりの考えを持つておくことだと思えます。それは日本の未来を担う人全てに共通することでしょう。私が将来、税を納める側の立場になったら、国民の中の一人としての責任を持ち、義務を果たせるようにしていこうと思えます。